

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-3-1 医療機能の確保

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 健康推進課がん対策推進長 半場 祐子 電話番号 0852-22-6963

事務事業の名称	地域医療再生計画事業	
目的	(1) 対象	医療機関等の関係者
	(2) 意図	1. 助産師の新任期の実務研修を医療機関が相互に協力する体制を構築し、実務研修を受講した助産師の資質の向上を図る。 2. がん診療医をサポートするための検診率の向上対策と検診体制を整備する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「助産師の卒後教育プログラム」を活用し、新任期の実務研修を標準化し、医療機関が相互に協力した交流研修を行い、新人育成のレベルの統一化を図る。ひいては院内助産システム（助産師外来や院内助産所）を普及させる。</li> <li>医療機関を対象としたがん検診の精度管理向上のための研修会、乳がん検診の読影医等を対象とした読影力維持向上のための研修会。</li> </ul>	

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	がん検診（子宮がん・乳がん）受診者数を増加させる	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	市町村・検診機関・医療機関におけるがん検診の延べ受診者数（島根県がん対策推進計画に基づく）	目標値		76,950	80,560	
			実績値	65,338	61,033	67,769	61,321		
			達成率		79.30	84.12	72.90		%
指標名	式・定義		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	24,381	29,700
うち一般財源(千円)	0	0

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・作成した新人助産師研修プログラムを基に助産師研修会（新人助産師研修、施設交流研修、指導者スキルアップ研修）を開催し、延べ130名受講した。研修受講者の満足度は高かった。県内での助産師採用は数名程度であり、十分な新任教育ができないことから看護協会助産師職能に委託した。

- ・子宮がん及び乳がんの検診受診者数の増加は見られず、両検診のがん検診受診率は全国平均を下回っている。  
※H23～24年度（2年間）の検診受診率（出典：国民生活基礎調査 対象年齢は40歳以上（子宮がんは20歳）から69歳）  
○子宮がん検診 島根県：39.2% 全国：42.1% ○乳がん検診 島根県：41.6% 全国：43.4%
- ・乳がん検診精度管理向上等のため、3月にマンモグラフィ読影実習（26名参加）、乳がんの講演（51名）を開催した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・助産師研修会の参加者がH25年度60名からH26年度130名に増加した。
- ・がん検診の精度管理の向上を図ることができた。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- ・経験年数の少ない助産師の実践能力の育成が困難である。
- ・子宮頸がん及び乳がん検診の受診率が低い。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・助産師は個々の施設では少数のため助産師に特化した研修が困難。
- ・検診の有効性及び検診の受診方法についての認知度不足。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・助産師のスキルアップのため、医療機関間の人材交流の支援が必要。
- ・がんに関する正しい知識の普及および検診を受けやすい体制整備が必要。  
子宮がん及び乳がん検診の受診率を向上させるためには、特に当該がんの罹患率の高い若い世代（働き盛り世代）への啓発が重要。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・助産師の新任期からの技能向上を図るため、引き続き助産師職能等と連携していく。
- ・助産師のスキルアップのために、医療機関間の人材交流を支援していく。
- ・協会けんぽ等の団体との連携による検診体制の検討、整備
- ・職域など関係機関と連携したがん検診に対する正しい知識の普及啓発の推進

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）